

# 東京玉翠会菊池寛杯争奪麻雀大会ルール

2006年12月2日制定  
2013年2月2日改訂4版

## 1. 大会運営ルール

- (1) 半荘4回戦持ち点制。3回戦までは、ランダムな組合せにて対戦。最終回(4回戦目)は、3回戦までの得点順に、1~4位、5~8位等の組合せにて対戦。全4回戦合計得点上位順に最終順位を決定する。4回戦合計得点が同点だった場合は、同順位とする。
- (2) 各半荘は、2万5千点持ち3万点原点にて百点単位得点計算。半荘終了時に得点が同点だった場合は、上家優位(起家最優位)とする。ウマとして、1位者に+1万点、2位者に+5千点、3位者に-5千点、4位者に-1万点を与える。(尚、得点集計上は、千点を1点として表示する。)
- (3) 3回戦までは各半荘1時間打ち切り(1時間を越えて新しい局を開始しない)。最終回は、1時間10分打ち切りとする。
- (4) 大会開始時刻に遅刻した場合は、30分(端数切捨て)につき1万点を大会得点から減ずる。
- (5) 1期3年(6大会)の通算得点にて、総合優勝(3大会以上の参加を条件とする)を決定する。各大会の参加者に参加点1万点を与える。

## 2. 麻雀競技ルール

- (1) 場決めは、仮着席にて四風牌+1牌のつかみ取り。東風席者によるサイコロ一度振りで、出た目起家。
- (2) 東南回し。連荘は、原則、親の和了時のみ(流局時親聴牌でも流れ。九種九牌、四風子連打等による流局も親流れ。子のチョンボ時のみ例外的に連荘とする)。ラス親の和り止め(終了選択)あり。
- (3) 不聴(ノーテン)罰符は、場3千。
- (4) 積み棒加算(積み棒一本につき3百点)あり。何本場になっても、二翻縛りは無し。
- (5) 二家和(ダブルロン)、三家和(トリプルロン)あり。
- (6) リーチ棒千点。和り取り(ダブルロン、トリプルロン時は上家取り。最終局の和了者不在時で、リーチ棒がツミ棒として残った場合は、トップ取り)。
- (7) 基本的に「ありあり」ルール。
  - ・ 喰いタン、先ヅケあり。喰いピンなし。
  - ・ フリテンリーチあり。フリテン片和りなし。リーチ後の和り牌選択あり(見逃し以降フリテン扱い)。
  - ・ 形式聴牌あり。カラ聴(和り牌なし)あり。
  - ・ 一発、裏ドラあり。カンドラ・カン裏あり(暗カン時は、即乗り。明カン時は、後乗り)
  - ・ 食い代えなし
- (8) オープンリーチなし。焼き鳥、割れ目、ドボンなし。
- (9) ロン優先。ポン、チーは発声順。同時の場合はポン優先。先ヅモ厳禁。
- (10) 王牌はカンがいくつあっても14牌残し。
- (11) 30符4翻以上は満貫(子7700点、親11600点取りはしない)。6翻以上ハネ満。8翻以上倍満、11翻以上3倍満。13翻以上は数え役満(4倍満)。流し満貫は満貫。チョンボは満貫払い。
- (12) ダブル役満は、九蓮宝燈の9面待ち、国士無双の13面待ち、四暗刻の単騎待ち、大四喜。
- (13) 七対子は50符1翻(子1600点、親2400点)。ただし、ドラを含め他に4翻以上の手役がある場合は、2翻に数える(いわゆる25符2翻取り)。
- (14) 平和(ピンフ)ツモは20符2翻(子1300点、親2100点)。
- (15) 下記は流局。
  - ・ 九種九牌倒牌(子:配牌にヤオ九牌が8種9牌、ツモって9種9牌ある時。親:配牌9種9牌)
  - ・ 四風子連打、四人リーチ、四開槓(カン)
- (16) 大三元の二種類をフーロして、最後の一種を鳴かせた場合、ツモ和りなら責任払い。振り込みの場合は、振り込み者と折半する。
- (17) カンによる嶺上開花(リンシャンカイホウ)で和った場合、カンをさせたものの責任払い。カン振り(嶺上牌ツモ後の捨て牌にて和了、1翻)、チャンカン(ポンをした後のツモによる加カン牌にて和了、1翻)あり。

\* その他、判断に迷った場合は、幹事までご相談下さい。